

令和 2 年 6 月 8 日開催 小平市長期総合計画基本構想特別委員会要旨

※審議会の検討用にまとめたものです。正式な会議録は、小平市議会ホームページから閲覧できます。

開催日時	令和 2 年 6 月 8 日（月）午前 9 時から午後 2 時
開催場所	全員協議会室
出席者	<ul style="list-style-type: none"> ・委員 13 名 松岡あつし委員長 橋本久雄副委員長 伊藤央委員 川里富美委員 さとう悦子委員 佐藤徹委員 竹井ようこ委員 橋本孝二委員 福室英俊委員 細谷正委員 水口かずえ委員 山田大輔委員 幸田昌之委員 ・事務局 3 名 企画政策部長 企画政策部総合計画担当課長 企画政策部政策課長補佐兼総合計画担当係長
配付資料	<ul style="list-style-type: none"> 資料 1 (仮称) 小平市第四次長期総合計画 骨子案の概略 (案) 資料 2 (仮称) 小平市第四次長期総合計画 基本的な理念の検討 資料 3 (仮称) 小平市第四次長期総合計画 12 年後にめざすまちの姿 (将来像) の検討 資料 4 東京 26 市 総合計画の概要一覧 資料 5 (仮称) 小平市第四次長期総合計画 基本的な取組の方向性の検討 資料 6 取組の方向性の検討に向けた論点整理 資料 7 (仮称) 小平市第四次長期総合計画策定に係る全体スケジュールの概要 資料 8 (仮称) 小平市第四次長期総合計画策定に向けた市民参加の取組 資料 9 第 3 回小平市長期総合計画基本構想審議会 検討用シートの取りまとめ

《主な質問・意見・提案等》

■策定スケジュールに関して

- ・策定スケジュールに変更は無いのか。
- ・新型コロナウイルスを受けてのゼロからの見直しはしないのか。
- ・策定スケジュールありきではなく、変化にしっかり即応した内容の吟味を希望する。

■計画策定の前提となる事項について

- ・まちづくりの市民意識が変わってくるのでは。
- ・計画策定の趣旨の中で、新型コロナウイルスを受けての転換についてしっかりと示すべき。
- ・質の向上を実現できる施策を打つには、何をするのが書かれていない。大きな視点では、現在の資本主義経済のままで質の向上が実現できるのかなど、かなり経済のシステムを変えなければならない。そういったことまで視野に入れる必要がある。
- ・世界規模での大きな変化を前提としているのか。そういったことも認識しながら進めていかなければならない。
- ・国や東京都の新型コロナウイルスに関する対応の指針など、根拠になるようなものは、第四次長期総合計画に落とし込んでいくことが必要ではないか。経済の根本まで揺るがず出来事であり、方向性、小平市が取るべき対応について示していくべき。
- ・新型コロナウイルスに付随してオリパラの延期など、先行き不透明な部分がある。大きなところで

パラダイムシフトが起きていく。自治体経営にも大きな影響を及ぼす。新しい生活様式に変化し、小平市がそうした生活様式に合った選ばれるまちになるということを第四次長期総合計画に入れるべき。

- ・新型コロナウイルスを経てパラダイムシフトが進んでくと、10年20年で到達することが5年10年で到達することが想定される。
- ・人口減少、人口構成の変化や経済財政状況を見据え、合併も一つの選択肢として考えるべき。
- ・人口減少、人口構成の変化や経済財政状況の変化について示されているが、改めて変化していくのではないか。
- ・人口を減らさないための具体策を示す必要がある。
- ・「未来を残す」という日本語は成立するのか。また「未来」より「将来」の方がよいのでは。
- ・小平市の特性として交通を取り上げている。都心へのアクセス性に優れているとあるが、新型コロナウイルスによるテレワークの促進などによって、変化している。このことを小平市の優位性としてうたってよいのか。
- ・新型コロナウイルスが終息した後には、リモートワークが定着する。これは小平市にとってチャンスである。都心から30、40分という距離感をいかすべき。
- ・第三次長期総合計画の間に実施した主な施策と合わせて、実施できなかったことも振り返ったほうがよい。
- ・人口減少、人口構成の変化や経済財政状況の変化を踏まえた形での都市計画を検討していくべきではないか。また都市計画を進めていく際には、市民の意見もしっかりと聴きながら、整備を検討していくということを文言として入れるべき。
- ・自然災害や気候変動に対する安全安心への対応については、感染症についても盛り込むべき。

■将来像（ビジョン）について

- ・参考とするまち、人が集まる又は人が住みたくなるといったビジョンを持って策定しているか。こうなりたいから、こうあるべきということが第四次長期総合計画として表れていないといけない。
- ・第四次長期総合計画が終わった後の小平市がどうなっているのか見えてこない。小平市として変わらずに大事にしたいものをしっかり打ち出してほしい。選ばれる小平市にするためにどういうデザインをするのが第四次長期総合計画であるべき。

■骨子案に対する意見及び今後の意見募集について

- ・骨子案に対する意見募集の中で、30代がゼロということについてどう受け止めているか。今後の努力にも期待したい。
- ・企業との意見交換に参加された方で30代の方や地元の方はいたか。今後も企業との意見交換は実施するのか。
- ・大学との意見交換にあった、「失敗を見守りながらも、新しいチャレンジを応援する風土」といった大事なキーワードは、第四次長期総合計画の中でも拾ってほしい。
- ・新型コロナウイルス感染症を受けて、骨子案に対する意見の中身自体が変化するのでは。改めて、意見募集は実施しないのか。
- ・今後パブリックコメントを実施するとのことであるが、同じようなやり方では市民ニーズは拾えない。今後12年間進んでいく方向性について、市民にしっかり確認する必要がある。

- ・地域懇談会等を実施しても、集まりづらい状況があるのではないかと。今後パブリックコメントを実施していく際に、今までどおりのやり方では難しい。審議会もウェブで迅速にやったという実績があり、ICT 政策をいままで以上にスピード感を持って進めていかなければならない。ウェブを活用するなどの工夫を。

■各基本目標（方針）について

- ・取組の方針の中に「子どもの権利」は入れていただきたい。骨子案に対する意見の中にも、そのような趣旨の意見がある。
- ・子どもの人権、あるいは人権尊重を柱の一つに上げていただきたい。第四次長期総合計画の策定にあたって、人権尊重について、国立市の考え方を取り入れてほしい。
- ・多文化共生に向けて、難民問題等もっと準備しておかなければならない。
- ・たとえば地域循環経済を総合計画に取り込んでいくべき。地域の中での自給自足、特にエネルギーについて考えていかなければならない。
- ・多様性への対応にはあらゆる場面で予算をつけていく必要がある。住民の福祉向上ということ、税収入も含めて、もっと素案に盛り込んでいくべき。

■基本目標横断プロジェクト1（防災減災）について

- ・自然災害については、感染症防止と避難のあり方など、市民の皆様の安全安心への対応の考え方が変わるのでは。
- ・Society5.0時代の到来を掲げておきながら、防災減災の取組ではSociety5.0を取り上げていない。例えば緊急輸送道路が必要なのか。ドローンで輸送する時代になるのではないかなど、今の価値観でしか考えていないように見える。
- ・災害の多様化に伴い、人命救助を第一に取り組んでいく姿勢を示してほしい。

■基本目標横断プロジェクト2（地域拠点）について

- ・長期総合計画基本構想審議会には、公共施設マネジメントの観点をどのように説明しているのか。財政的に縮小しなければいけないという側面からの説明のみになっていないか。公共施設マネジメント所管の方からもきちんと説明するべき。
- ・公共施設マネジメントはサービスを低下することなく、最適化を図っていく必要がある。
- ・小平市は開拓や神社の歴史があり、それがコミュニティの拠点になっていた。その後行政としては自治会を増やす努力を怠ってきた。若い世代は地域というくくりがない中で育ってきている。こうした中で、今から地域でコミュニティをつくるといってもつukれないのではないかと。現実的にどのように取り組んで行くのか。

■自治体経営について

- ・行財政再構築プランを一本化する中で、市民参加をどう担保するのか。行財政再構築推進委員会は、公募市民の委員は少ないので、市民にもしっかり参加してもらえるような工夫を。
- ・新型コロナウイルスによってデジタル化が加速されるのに伴い、市の財政にも変化が生じる。
- ・公民連携が強調されていると受け止めているが、自治体経営の全てをコストに置き換えるということがないようにしていただきたい。市民と一緒に考えていくという認識を持ってほしい。

- 自治体経営方針で、サービスの受け手の声に耳を傾けながら施策や事業を立案展開し、PDCA サイクルの中で改善を図るということは、非常に大切な観点。
- 市民等がサービスの提供の担い手にとどまらず、地域において経営の一旦を担っていただくとあるが、具体的にどのように進めるのか。
- 小平市の庁内のスリム化、意思決定、実行に移すまでのスピード感について努力していく必要がある。
- 職員の働き方改革が進んでいく中で、職員給与がどうなっていくのか。高止まりのままなのか下がっていったって財源に充てられていくのか。多様性に対応していくには、職員を増やす必要があり、職員給与がこのままでいいのか、ということもしっかり検討すべき。

■長期総合計画推進の考え方について

- SDGs に引っ張られる必要は無いと思う。小平市には小平市の良さがあり、小平市だからこそできる世界への貢献を考えていくべきではないか。